

令和7年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立金沢向陽高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び今後の対策
<p>1 基本的な生活習慣を確立させるとともに、一人一人の生徒がタブレット端末を活用する個別学習や協働学習を通して、思考力・判断力・表現力を身につける授業を展開することで、生徒の学習意欲を喚起し、進路実現につないでいく。</p>	<p>① 遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への指導を通して意識改革を図り、基本的な生活習慣を確立する。</p>	<p>遅刻者が1日に A 2人未満 B 3人未満 C 4人未満 D 4人以上</p> <p>昨年度 2.3人 R7中間 3.0人</p>	<p>B 2.7人</p> <p>C・Dの場合、生徒への働きかけを再検討する。</p>	<p>中間報告時より数値が減少はした。しかし、特定の学年の特定の生徒の遅刻数が依然多くなっている。対象生徒および保護者に対して基本的な生活習慣の確立の重要性を伝え、生徒には改善を促し、保護者には生活改善の見直しに関して協力依頼をした。今年度から始業時間が早くなったこともあるが、大半の生徒はそれにも対応し規則正しい生活を送れている。</p>
	<p>② 決められたルール(校則等)をしっかりと守る。</p>	<p>私は(生徒は)校則等のルールをしっかりと守っている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない</p> <p>昨年度 A+B 92.4% R7中間 A+B 99.1%</p>	<p>A+B 96.2%</p> <p>85%未満の場合、指導方法を検討する。</p>	<p>昨年度より数値は上がった、中間報告と比べると低下した。日頃の学校生活をみていると多くの生徒が校則を守れている。また、保護者への説明も行うことで理解を得ながら進めている。学校としても足並みの揃えた対応を行ってきた。生徒には校則の重要性を理解させ規範意識をさらに高めていきたい。 また、今後も引き続き校則の見直しにも尽力していきたい。</p>
	<p>③ 個人面談を充実させ、生徒の様子を観察し、いじめ等の問題に相談室、学年、生徒課を中心に全職員で連携しながら迅速に対応する。</p>	<p>各課、学年が連携をとりいじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と対策に取り組み、悩みを抱えた生徒が、相談しやすい体制を整えている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない</p> <p>昨年度 C+D 7.1% R7中間 C+D 7.2%</p>	<p>C+D 9.5%</p> <p>10%以上の場合、改善策を検討する。</p>	<p>昨年度ならびに中間報告の際より数値が上昇した。いじめをはじめとする悩みを抱える生徒が増加していることが考えられる。今後も教員がアンテナを高くし情報収集に努め、いじめアンケートの時だけでなく様々な場面において、いじめが存在するという意識のもと、組織的に取り組んでいく。 5月、10月にいじめアンケートを実施し、いじめの早期把握に努めた。また同時期に心理検査「きらり」を全校生徒対象に実施し、一人ひとりの心の健康状態についての理解を図った。結果が気になる生徒を対象にSCによる個別面談を実施した。これらのことは、学年、相談室、生徒課の情報共有にも役立ち、学校全体での生徒理解につながっている。また、今年度は第3回目のいじめアンケートを2月にも実施した。状況を把握しやすく初期対応のために、生徒が相談しやすい体制づくりを行う。</p>
	<p>④ 総合的な探究の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通して、キャリア教育を推進する。</p>	<p>キャリア教育に関する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>A 87.3%</p>	<p>約9割が肯定的な回答と高い水準を維持している。インターンシップを経験した2年生は現実を直視する過程で一時的に数値を下げたが、これは自己理解が進む際の健全な成長過程である。その一方で「よくあてはまる」という強い肯定が中間報告より増え、より多くの生徒が「自分なら希望</p>

				<p>昨年度 88.3%</p> <p>R7中間 89.3%</p>	<p>C・Dの場合、改善策を検討する。</p>	<p>進路を実現できる」という確かな手応えを掴みつつある。今後はこの意欲を前向きな行動へと繋げていきたい。</p>
		⑤	<p>3年生の進路実現に向けて、個々に応じた指導を実践し、進路実現を図る。</p>	<p>第1志望校への進学、就職内定が実現した生徒が</p> <p>A 100%</p> <p>B 90%以上</p> <p>C 80%以上</p> <p>D 80%未満</p> <p>昨年度 100%</p> <p>中間 未定</p>	<p>B(進学)</p> <p>94.4%</p> <p>A(就職)</p> <p>100%</p> <p>C・Dの場合、取組等を再検討する。</p>	<p>全体での進路決定率は100%に達した。第1志望で不合格となった生徒も、再考の過程で学びの本質に自ら気づき、進路を確定させた。今後は、学問系統や職種を比較分析する活動を通じ、高まった意欲を「納得解を導き出す力」へと昇華させ、進路実現のみならず、将来の困難に対処できる適応力を涵養したい。</p>
▼	学校関係者評価委員会の評価		<p>就職決定までの状況や離職率を把握して指導しているか。生徒募集どうか。</p>	<p>▼学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針</p>		<p>「卒業生が語る会」を卒業生のフォローアップの機会にもしたい。生徒募集はうまくいっていないので、インスタなど新たな手を打ちたい。</p>
2	<p>特別支援学校の生徒との交流やボランティア活動などを通して、年齢や性別、国籍や障害の有無などに関係なく、全ての人と助け合い支え合う共生社会を創り上げていく人材の育成に努める。</p>	①	<p>特別支援学校の生徒との交流を通して、共生社会の実現に向け思いやりの心を育む。</p>	<p>特別支援学校生徒との交流を通して生徒は</p> <p>A 積極的にかかわり満足している</p> <p>B おおむね満足している</p> <p>C 満足度が低い</p> <p>D 満足度がとても低い</p> <p>昨年度 A+B 88.3%</p> <p>R7中間 A+B 86.6%</p>	<p>A+B</p> <p>95.5%</p> <p>80%未満の場合、活動内容の改善を検討する。</p>	<p>今年度より日常的な交流や合同授業が始まり、ほとんどの生徒が合同授業や探究活動、部活動などでいしかわ特支の生徒と交流をしている。今年度より障害理解のための特別授業を年間4回に増やし、理解促進に努めた。生徒は「コミュニケーションが取れて楽しい」「学びがある」などという積極的な意見やが多く、今後も合同授業や交流に対して期待している様子が見える。</p>
		②	<p>地域の方に喜んでもらえる行事やボランティア活動の機会を増やし、地域との交流に積極的に取り組んでいく。</p>	<p>地域の方に喜んでもらえる行事やボランティア活動などに</p> <p>A 複数回参加し、積極的に取り組んだ</p> <p>B 回数は少ないが、一生懸命に取り組んだ</p> <p>C 参加する機会がなかった</p> <p>D 参加したいと思わなかった</p> <p>昨年度 A+B 39.3%</p> <p>R7中間 A+B 23.0%</p>	<p>A+B</p> <p>44.7%</p> <p>50%未満の場合、改善策を検討する。</p>	<p>A+B評価を学年別に分析すると1年生60.6%、2年生44.1%、3年生29.6%という結果であった。1年生においては、いしかわ特支の文化祭ボランティアの参加をはじめ、積極的にボランティア活動に取り組む生徒が多く見られた。2年生においては、生徒会役員を中心に金沢マラソンのボランティア活動に参加するなど、学校行事および地域行事へ主体的に関与する姿が多く見られた。一方、3年生については、2学期以降、進路実現のための各種試験や準備等に時間的制約が生じたことから、A+B評価の割合は他学年と比較して低い結果となった。しかしながら、学校全体で取り組んだ地域ボランティア清掃においては、森本駅周辺の清掃活動に取り組み、地域への感謝を込めて丁寧に活動する姿が見られた。</p>
▼	学校関係者評価委員会の評価		<p>障害のある生徒と一緒にすることについては不安でいっぱいであった。</p>	<p>▼学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針</p>		<p>併置になる以前からの様々な交流や障害理解教育が生徒に浸透していた。教員、生徒対象の障害理解教育を進めていきたい。</p>

3	生徒・職員ともに防災への意識と備えを高め、学校環境の整備および地域との協力体制を築くための学習や研修を通して、安心・安全な学校づくりを目指す。	① 防災研修 推進校の視察を踏まえた校内研修を実施し、一人一人の職員が、非常時における最適解を導き出せる判断力を身につける。	研修等から防災意識・防災行動を高めることができている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない R7中間 A+B 81.0%	A+B 90.9% 85%未満の場合、指導方法を検討する。	本校教職員の防災意識については、A+B評価が90.9%を占めている。その背景として、奥能登地区の被災地を実際に訪問するフィールドワーク(11月実施)に参加し、災害状況を目の当たりにしたことで実感をもって理解できる機会となった。また、8月の豪雨災害で学校周辺地域にも被害が生じたことから、防災をより身近な課題として捉える意識が一層高まった。一方で、防災に関する知識や経験を生徒への指導にどのように生かすかについて模索している教職員も見られ、今後の研修や情報共有の充実が課題である。
		② 防災教育・防災行動 いしかわ特別支援学校と協働した防災避難訓練を実施し、安全を意識して行動する生徒を育成する。	私は(生徒は)防災教育・防災活動を理解している。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない R7中間 A+B 94.0%	A+B 95.5% 85%未満の場合、指導方法を検討する。	生徒の防災意識についても、A+B評価が95.5%と非常に高い。奥能登地区の被災地を訪問したフィールドワークでは、被災地の方々の話に真剣に耳を傾ける姿が見られ、災害を自分事として捉える意識が深まった。また、学校で実施している避難訓練においても一人一人が緊張感をもって取り組んでおり、日頃の学びが行動面にも表れている。
▼	学校関係者評価委員会の評価	地域の高齢化が進んでいる。地域との協力体制をもっと考えるべき。	▼学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	新春の大雪では確かにお年寄りが車道を歩き、危険だった。歩道確保は地域の安全につながる。除雪ボランティアも検討したい。	
4	部活動のさらなる活性化を推進し、技能の向上を図るとともに、心豊かな人間性と社会性を身につけた生徒を育成する。	① 部活動により多くの生徒が加入するよう指導し、かつ継続的な活動を促すことで、学校の活性化に寄与していく。	1・2年次生の部加入率が A 85%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 昨年度 82.0% R7中間 72.0%	D 49.5% 部活動加入率が50%未満の場合、早急に改善を検討する。	3年生が引退して2つの部の部員が0名になってしまったこともあり、大幅に加入率が減ってしまった。部に所属している生徒が日々技術向上に励んでいる半面、部活動に魅力を感じなくなってしまう生徒も増えている傾向にあると思う。来年度は生徒会役員からの継続的な呼びかけなどを行い、少しでも多くの生徒が部活動に励んでほしい。
		② 積極的に部活動の指導に携わり、部活動の指導力向上にも努める。	部活動の指導について A 積極的に支援し指導している B 概ね支援し指導している C あまり支援せず指導していない D 殆ど支援せず指導していない 昨年度 A+B 78.6% R7中間 A+B 79.8%	A+B 85.7% 70%未満の場合、早急に改善を検討する。	部活動加入率は大幅に下がってしまったが、指導者は積極的に部活動に関わっている。部活動未加入の生徒たちに対する部活動の魅力発信に力を入れ、学校の活性化に繋げたい。
▼	学校関係者評価	特になし	▼学校関係者評価委員会の評価結果を踏ま	加入率が前年度を大きく下回ったので、新年度の部活動紹介では紹介の時間を長くとするなど、何かしらのアクションを取りたい。	

委員会の評価		えた今後の改善方針		
5	<p>生徒・保護者・地域の理解を得ながら、学校行事や業務の進め方の見直しを図り、組織的・協力的な対応に努めることで教職員の多忙化改善に取り組む。</p>	<p>① 教職員の勤務時間調査から、働き方改革を把握し、働き方改革に対する意識の向上を目指す。</p>	<p>全体での業務改善を意識し、効率化につながる提言を行い協力して仕事に取り組むことで、時間外勤務の縮減に努力している。</p> <p>A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない</p> <p>昨年度 A+B 85.7% R7中間 A+B 80.9%</p>	<p>A+B 77.2%</p> <p>80%未満の場合、早急に改善を検討する。</p> <p>あまりあてはまらない4名、あてはまらない1名が回答している。時間外勤務としての1番は部活動である。その他、授業担当科目が多く教材研究など準備に時間を費やすことが予想される。校内の分掌を希望に叶うように、得意な分野で活躍しやすいように考慮するが、平準化と考えられていないようである。時間外勤務の減少と有給休暇の取得日数の増加するように声掛けをしていきたい。</p>
▼	<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>インクルーシブやDXなど、どこでも経験できない良い経験をしている。</p>	<p>▼学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針</p>	<p>特にインクルーシブ教育は本校のみの取り組みであり、課題等も見えてきた。充実させつつ、働き方改革への意識をもたせたい。</p>